

# 平成30年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成30年8月10日  
舢倉診療所長 寺島 良

平成30年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成30年8月4日（土）、5日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了しました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

## 1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、眼科、内科、特定健診、大腸癌検診、前立腺癌検診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

## 2. 日程

平成29年8月4日（土）午後1時～午後5時

8月5日（日）午前9時～正午

## 3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

内科：診察室、保育室

特定健診：保育室

大腸癌検診：受付ロビー

前立腺癌検診：受付ロビー、保育室

受付：玄関ロビー

## 4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴 医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	近岡 莉央 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
眼科	山本 ひろみ 医師（やまもと眼科クリニック）
整形外科	庭田 満之 医師（国下整形外科医院）
内科	堀田 祐紀 医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	畑森 陽花 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
特定健診	浜高 康夫 臨床検査技師（市立輪島病院）
	竹山 智美 臨床検査技師（市立輪島病院）
	弥郡 優加里 管理栄養士（市立輪島病院）
	二谷 善人 庶務係長（市立輪島病院）
レントゲン撮影	荒川 昇 放射線技師（県立中央病院）
血圧測定	中澤 瞳 看護師（県立中央病院）
	宮野 莉菜子 看護師（県立中央病院）
受付	柴垣 都志子 看護師（市立輪島病院）
	伊東 義修 課長補佐（県庁地域医療推進室）
	齊藤 美咲 主事（県庁地域医療推進室）
	酒井 玲奈 主事（県庁地域医療推進室）
診療補助	金子 裕一 医師（県立中央病院）
	藤永 昌宏 医師（県立中央病院）
	水原 寛平 医師（県立中央病院）
運営	寺島 良 医師（舢倉診療所）

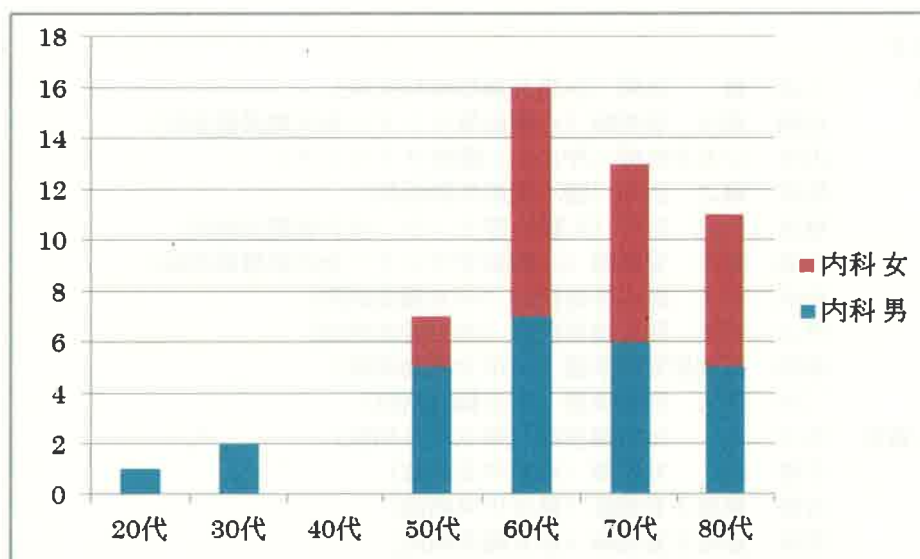
## 5. 受診状況と問題点・今後の改善案

平成 30 年度は、のべ人数 147 名、実人数 56 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	大腸癌 検診	整形外科	前立腺癌 検診	合計
30 年度	50	24	中止	30	24	中止	19	147
29 年度	49	13	14	33	26	none	19	154
28 年度	41	21	13	34	25	none	16	150
27 年度	52	20	19	38	28	31	20	208
26 年度	40	20	16	28	16	32	None	152
25 年度	46	27	14	17	None	35	None	139
24 年度	46	23	8	18	None	None	None	95
23 年度	50	23	12	18	None	27	None	140

全体の傾向としてはのべ受診人数、実人数は共に減少した（実人数：H28 年度 61 名⇒H29 年度 56 名）。受診人数は特定健診と大腸癌検診で減少していたが、そのほかの項目では増加した。のべ受診人数、実人数が共に減少したのは、今年度は 2 日目が欠航となり、眼科・整形外科が中止になったことが原因と考えられる。また、島民自体の減少も一因となっているだろう。島民が減少しているにも関わらず、内科と耳鼻科の受診人数は増加している。これは、島民全体の健診に対する意識が高くなっていることが原因と考えられる。特定健診と大腸癌検診に関しては、受診者は減少しているが、一定の人数は受診しており、今後も必要となるだろう。以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

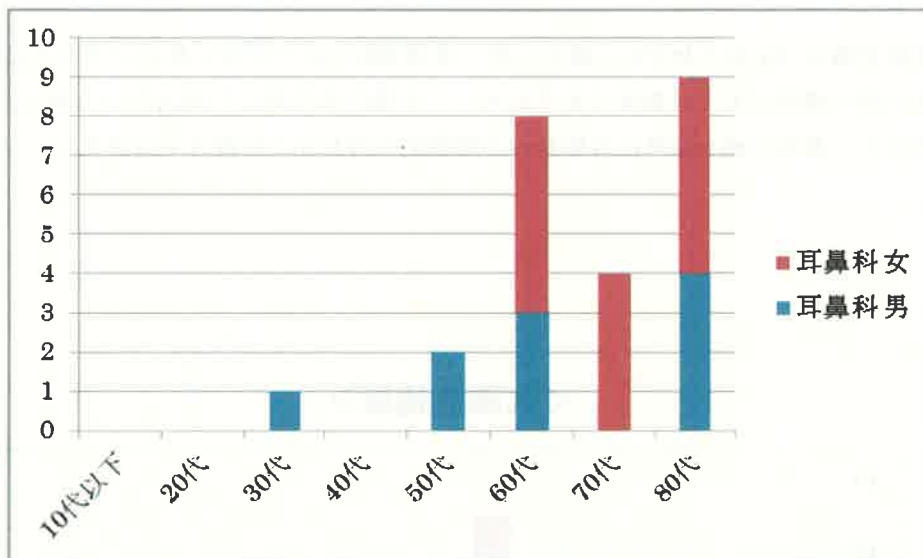
### <内科>



内科は昨年同様 50 歳代以上の年代で高い受診率を示している。今年度受診者数がさらに増えたのは事前に多くの方で胸部レントゲン写真や心電図を施行できていたことにより当日の待ち時間が減少したことや、受診への積極的な呼びかけによると考えられる。20,30 代と若い世代でも受診者がみられたが、島民は喫煙や飲酒などの生活習慣の乱れが目立ち、若い年代でも健診を行う意義は大きいと考えられる。実際、要経過観察となった方もおり、今後も若い年代でも積極的に健診受診を勧めていくべきと考える。

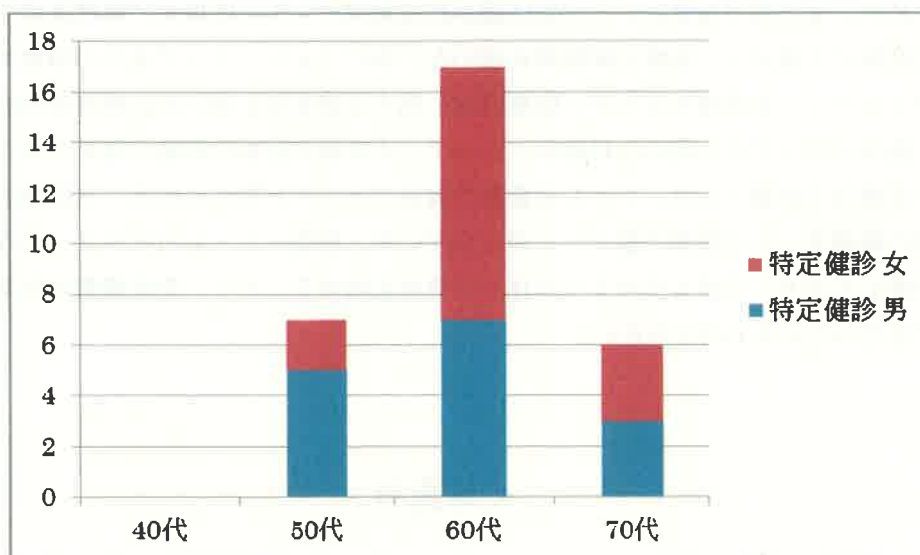
一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。年一回の貴重な機会なので、既往歴や日常診療での会話の中で、少しでも内科健診を受ける意義があると思われる方には積極的に健診での内科受診をすすめた。また代々所長によって受け継がれる島民サマリーに加え、専門医の先生に相談したい点に関しては別紙にて提示し、診療の御指導を頂いた。特にフォローアップカテの時期や昨今問題となっているポリファーマシーを改善するために服薬内容に関する御意見を頂いた。普段専門的な検査を受ける機会の少ない島民にとって年一回の内科健診によって、心疾患が初期の段階で発見されることも多く、今年度も精査が必要な方が認められ、とても有意義な健診であったと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、今後もサマリーの日々の更新を続けることで、患者情報の正確な引き継ぎとフォローアップを行っていかねばならない。

### <耳鼻科>



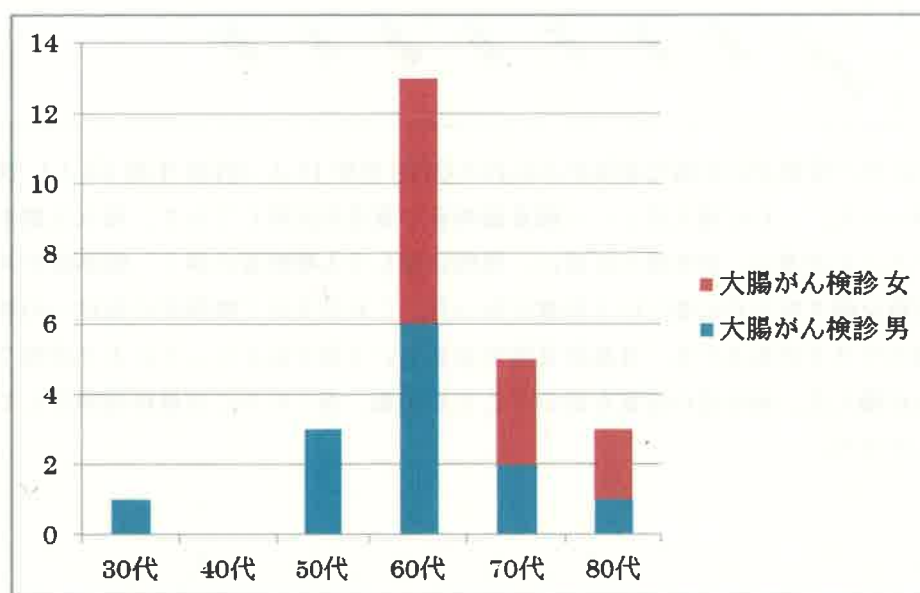
今年度は昨年に比べ受診者の大幅な増加がみられた(H29年度 13人⇒H30年度 24人)。例年通り女性の受診者の方が多かった。これは海女漁という舩倉島特有の背景を反映しており、海女は潜水による耳の問題をかかえていることが多い。前年度の反省に、男性に関しても喫煙者が多く、喉頭癌のスクリーニングが必要なため受診を促す努力が必要という記載があった。これを受けて健診前の島民への呼びかけでは、喫煙者は喉頭癌のリスクがあるため、耳鼻科受診が必要という旨を伝えたことにより男性でも耳鼻科受診を希望される方が増えた。前年度の反省を活かすことが出来、多くの方に耳鼻科受診をして頂き、有意義な健診となっただろう。

### <特定健診>



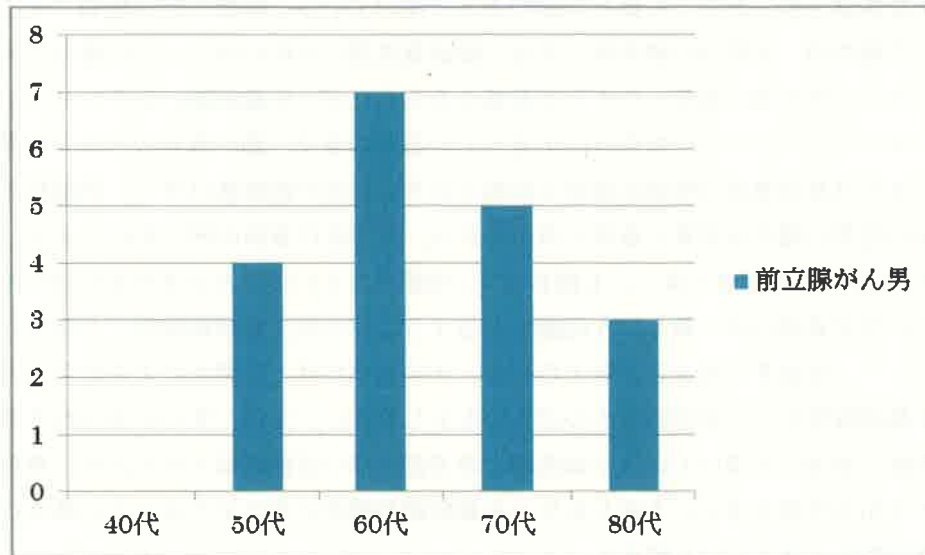
特定健診の受診者数は 30 名とわずかに減少した。普段通院されていない島民にとっては、年に 1 回の特定健診は 1 次予防の機会としては重要であるため、この機会を活用して頂きたいと思う。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に対象者への積極的な呼びかけを続けて頂きたい。

### <大腸癌検診>



昨年に続いて行った便潜血検査による大腸癌検診は 24 名とわずかに減少した。人数が減少したのは、島民の減少と前年度以前に便潜血陽性となり毎年上下部内視鏡を施行している方が増加したことによるだろう。2 日間にわたって島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、胃カメラを施行していない現在において、侵襲が少ない検査であり、今後も是非継続して頂きたい。ただ、上手く便を採取できず、当日中止となった方もいたため、特に高齢者では採取方法を丁寧に指導する必要があるだろう。

## ＜前立腺癌検診＞



PSA マーカーを用いた前立腺癌検診 19 名と受診者数は前年度同数であった。特定健診や内科の採血で同時に施行できることもあり簡便なため多数の方が受診されたと考えられる。普段泌尿器科的な診察を受けることが出来ない島民において、近年増加傾向の前立腺癌をスクリーニングすることは極めて重要と思われる。IPSS スコアを同時につけることによって、前立腺肥大症の患者もスクリーニングすることが出来今後も継続していく事が望まれる。

### 6. 各科診療内容

#### ＜内科＞

昨年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。H21 年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度は 50 名と例年に比べても多くの受診があった。実人数が減少していることを考えれば、内科健診の需要は極めて高いと考えられる。金子医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民にはできるだけ事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定（左右）を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。またサマリーに加え日常診療において特に相談したい点がある方に関しては紙カルテに付箋を貼り、御指導を頂いた。基礎疾患の有無に関わらず全例に心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、下肢の血管ドップラー超音波検査も併せて施行して頂いた。

今年度も事前に心電図をとりきれなかった方のための記録場所を内科診察とは別に設けた。今年度は整形外科健診を行う予定であったため、心電図記録場所を保育室に設けることとなった。前年度まではレントゲン撮影と同様の場所(レントゲン室)で施行していたが、今年度は場所が違ったため、両方行う必要がある人にとっては煩雑になってしまった。心電図の施行場所に関しては、来年度以降も整形外科健診を行うのであれば、考慮する必要があるだろう。

結果では、異常所見として弁膜症、心肥大、不整脈、下肢虚血などが挙げられる。そのうち 1 名の方がカテーテル検査、1 名の方がホルター心電図を施行することとなった。不整脈のある方の今後の薬物治療の方針や弁置換術後の方やカテーテル治療を受けた方の治療後のフォローアップなど、専門的視点から治療方針の御指導を頂いた。また、胸部レントゲン異常を指摘された方も一人おられ、精査の方針となった。

### <耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和 58 年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舢倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤー（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。また耳鼻科健診は喉頭癌検診もかねており、島民の喫煙量は多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会是非常に重要と考えられる。今年度は事前の呼びかけにより、男性の方にも多く受診頂いた。しかし、喫煙量が多いにも関わらず、受診されていない方がまだまだ多いのも事実である。そもそも島民には耳鼻科は耳と鼻という認識があるように思われ、喉頭癌検診でもあることを、今後周知させていくことで、受診率が高まると考えられる。そのためには、診療所だよりなどで耳鼻科という表記ではなく、耳鼻咽喉科という表記にするのが良いかもしれない。また、笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係がみられた。事前の調査では小森医師が来られるから受診するという声もあり、小森医師が健診に来て下さることの島民にとっての重要性が専門的医療を超えたところでも伺えた。

24名の受診者で異常所見の内容は、上咽頭炎、舌扁桃炎、ポリープ様声帯、外耳道炎、鼻炎、鼻茸、老人性難聴、騒音性難聴、亜鉛欠乏による味覚障害などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオーディオメーターによる聴力検査を行った方が5人おり、診察に役立った。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、健診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。

### <特定健診、保健指導（栄養指導）>

昨年度に引き続き、今年度も輪島市の特定健診を舢倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険、船員保険加入者の40～74歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導（栄養指導）である。市立輪島病院二谷庶務係長、浜高臨床検査技師、竹山臨床検査技師、弥郡管理栄養師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血、保健指導を行った。

受診者は女性15名、男性15名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。実人数の減少、高齢化に伴う75歳以上への移行の割に、特定健診の受診者はほぼ横ばいであり、島民の健康意識の向上が感じられた。

昨年同様、健診当日の弥郡保健指導を管理栄養士に担当して頂き、栄養指導を中心的に御指導いただいた。日常診療で食生活を改善したいと考えているが、どう改善すればよいか分からないという島民の声は非常に多く、昨年度の検査結果や島民サマリーなどを活用し、専用のパンフレットを利用しながらの分かりやすい丁寧な栄養指導は、島民にとって非常に有益であったと考えられる。ぜひ来年以降も栄養指導を継続して取り入れていただきたい。

特定健診では事前に受診票がないという方を抽出し再発行していただいた。例年、受診票や保険証を輪島に置いてきてしまう人が少なからずおられるので今年度も早めから広報を行ったことにより、2名に抑えることが出来た。今後も「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為には必ず持ってきてもらう。保険証とともに一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを一人一人に広報する必要がある。

## <大腸癌健診>

昨年度に引き続いて大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。事前に広報し、希望者を募っての検査であり、便を採取するのに2日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さがあるにも関わらず、検査人数は24人と昨年度と同等の人数を確保できた。以前に検診で異常を指摘されて大腸内視鏡検査を定期的に受けられている方は大腸癌検診を受けていないため、大腸癌のスクリーニングをしている人数としては増加傾向であると考えられる。ただ、自分で便を採取することが難しく、中止とされた方もおり、来年度以降は丁寧な指導が必要と考えられる。受診した24人のうち異常がみつかった方が、1名おられたので下部消化管内視鏡検査を受けて頂く方針となった。それぞれの病院の地域連携を活用することで、診療所から事前に検査予約を取ることが可能であるため患者本人が検査予約の為に離島する必要が無くなった。今後も診療所から予約をとることが島民の負担を減らし、検査へのハードルも下がると考えられる。

以前の検診で大量の海藻摂取で偽陽性となることがわかっており、検体の容器を配る際に海藻の摂取を控えるようアナウンスを行った。島民の大腸癌検診への関心は非常に高く、舯倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、今後も島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを進めていくことが重要である。

## <前立腺癌検診>

昨年度に引き続いてPSAマーカーを用いた前立腺癌検診を実施した。特定健診と同時に採血を行える簡便さもあり、受診者は男性だけの対象であるが19名を確保することが出来た。その中で癌の疑いがあり精密検査を必要とした人はいなかった。昨年同様cut off値を全国的に用いられている4ng/mlと設定した。1ng/ml以上の方は今後もPSA値をfollowしていく方針とした。

また、問診票でIPSSスコアも記録しており、前立腺肥大症のスクリーニングにも有効であると考えられる。排尿関連の症状を訴えられる島民は多く、そうした人を積極的にスクリーニングし専門医へ紹介するために有用であった。実際、健診でIPSSスコアが高かった人が7名(9点以上)おり、専門医への受診を勧めた。今後も毎年でなくても良いと思われるが、定期的に続けてほしいと思う。

## 7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

### ① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられた。しかし、診療科ごとの受診予定者リストにより大きな混乱は生じなかった。事前に大半の受診者の心電図、胸部X線が施行されていたことも、スムーズな誘導に繋がったと考えられる。ただ昨年度に引き続き、血圧測定、特定健診診察、採血、栄養指導、内科、耳鼻咽喉科をどの順番に進めばよいかわからない方が多数みられた。スタッフにも事前に自分の配置の次にはどこに行くかを口頭では伝えていたが、それ以外のことを島民に聞かれるとわからないとの意見があった。特定健診の方、内科受診の方、耳鼻咽喉科受診の方がそれぞれどのような順番で測定や診察を受けるかをスタッフ全員に1日目の反省会で口頭にて説明したが、来年度以降はスタッフ全員に書面にて全診療の流れを健診開始前に説明することを検討して頂きたい。

またどの書類をどこで回収するか、そしてどの書類を回収して、どの書類を持ち帰ってもらうかについても不明であるとの意見があった。基本的には栄養指導にて渡した書類以外は回収し、各診療科のファイルは各診療科で回収してもらう方針であったが、これも事前に全員に共有することが必要であった。内科、耳鼻科のファイルは昨年度同様準備していたが、特定健診用のファイルもあれば良かったとの意見があったため、来年度以降は参考にして頂きたい。

もう一点、名簿の文字が小さいとの意見があり、来年度以降は改善願いたい。

## ② 設備上の問題と対策

(耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用)が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事がH24年度より判明している。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣同士なので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。

H30年度は遠心分離、レントゲン、耳鼻科ファイバーのタイミングは気にせず使用していたが、ブレーカーが落ちることは無かった。ただ来年度以降、整形外科診療を行うのであれば、レントゲンを撮影する機会が増えると考えられ、耳鼻科ファイバーとレントゲンスタッフの声掛けで機器の使用が重ならないようにする必要があるかもしれない。

内科のエコーであるが、今年度は輪島病院より心エコーを持参頂いたため動きとしては問題がなかったようである。しかし、プリンターがないことが問題であり、前年度との比較が出来なくなってしまうとの御意見を頂いた。来年度以降は、プリンターと接続できるケーブルなどが必要である。

また当診療所にある体重計が高さ20cm程であり、高齢者にとってはかなりの高さとなり危ない場面があったと伺った。次回までに低い体重計に替えるか、段差を準備するなど対策すべきだろう。

## ③ 参加人数に関する問題と対策

今回の健診では、昨年度に引き続き2名の学生にも参加してもらった。身長・体重測定などを手伝ってもらったが、身長・体重測定後や採血後の島民の案内も同時に行ってくれた。学生がいなければ手が回らなかったかもしれないとの意見があったため、来年度以降で学生が参加しない年があれば、研修医1年目か看護師のいずれかの追加が必要かもしれない。

## ④ 特定健診・内科健診について

前年度までの反省に問診用紙などに年度の記載がなく混乱を招いたとあり、今年度は全ての資料に年度を記入したため、その点の混乱を招くことはなかった。来年度以降も全ての資料に年度を記入するようにして頂きたい。また、受付では昨年問診票を参考に問診しているとのことなので、健診前にファイルには前年度問診票とカルテのみを残し、不必要なものは取り除いておく必要があると考えられる。

内科健診と特定健診のどちらの問診でも既往歴や嗜好歴に関する問診をしておき、内容が被っているため対策してほしいとの意見があった。島民は優しい方が多く、同じ内容を聞いても怒る方などはいなかったようだが対策が必要だろう。内科健診での問診の方がより詳細に既往歴、嗜好歴に関して聞いているようなので、内科健診の受付の後に特定健診の受付を行ってもらい、内科健診の問診票を参考に特定健診の受付の方には記載頂けば問診の重複はなくなるだろう。

特定健診は広報での再三の呼びかけにも関わらず、当日受診票も保険証も持ってこない方が2名いらっしゃった。今後も4月から毎月の広報で受診票と保険証の持参を徹底することが大切である。また、事前に申し込み者を把握することで、各島民の保険の種類も確認することが出来た。島民の中には、船員保険の方もおり、別紙の受診票が必要な方もいた。今後も7月中旬までには受診者リストを作成し、市と協力し事前に確認することが必要である。

## ⑤ プライバシーについて

今年度も例年通りプライバシーの保護のための保護カーテンを使用して内科診察室の入り口に設置した。しかし、特定健診の診察時に保護カーテンが不足しているとの指摘があり、来年度以降は保護カーテンが追加が必要と考えられる。もしくは、特定健診の診察に関しては調理室で行ってもいいかもしれない。また女性の腹囲測定場所も改善が必要であるとの意見を頂いた。今後もプライバシーの保護には務めるべきであり、写真をみて今年度の区切り方を参考に来年度に活かして頂きたい。

## 8. まとめ

今年度で舳倉島総合診療は37回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的



な診療を受けられる総合診療は、舢倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舢倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が約半数、75歳以上の後期高齢者が約30%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診、前立腺癌検診に関しては、これからの島を支える若年者・中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舢倉診療所長に課せられた命題と考える。

## 9. 謝辞

今年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今年度は、船の欠航があり、3日間滞在頂いたにも関わらず、快く診療して頂き誠に有難うございます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても充実した3日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 寺島 良

平成30年度診療スタッフ集合写真（H30.8.6 出航前のニューヘぐら前にて）

